

## 第8回 環境・健康ビジネス研究会 in 増富温泉 増富の湯

2011年11月29日（火）視察会 13:00～15:00／研究会 15:00～17:00

---

### 「増富の湯、増富温泉郷における体験・健康サービスと課題」

視察案内・発表者：小山 芳久（増富の湯支配人）

発表者：小澤三千恵（増富温泉婦人部 部会長）

小澤三代子（増富温泉婦人部 副会長）

村松 良平（増富温泉青年部 温泉博部会長）

### 1. 温泉博覧会 2011

増富温泉では、昨年度から地域の関係者挙げて温泉博覧会を開催している。この博覧会は、食・健康・自然と大きく3つに分類された交流体験イベントを約1ヶ月間開催するもので、本年度は9月17日～10月16日の期間に開催した。みずがきの森、横尾山、旧増富中学校、増富の湯など地域の様々な場所を会場とした。本部は温泉峡の中心部にある市営駐車場で、イベント期間にはテントを設置し、このテントで主要な体験イベントを行った。

本年度の体験イベントは25ほど、増富温泉婦人部や青年部主催イベントには次のようなものがある。

#### ■ 女将食堂：増富温泉・婦人部による交流体験イベント

婦人部（会長 金泉閣女将）では、地元素材を用いた料理を提供する女将食堂を企画。開催期間中の木曜日、11:30～13:30の昼食時間帯に食事を提供した。料金は1,000円で、人気も上々、採算性もあった。



### ■ 星空温泉 Bar：増富温泉・青年部による交流体験イベント

青年部では、地元の酒やつまみを提供する星空温泉 Bar を企画。毎週火曜日 18：30～20：30 に開催した。増富温泉には、宿泊客、地元民が楽しめる Bar はなく、星空温泉 Bar は地元の若者、宿泊客双方が交流を深める場所となった。

### ■ 健康増進・医療体験イベント

免疫学の安保先生による講演会を 10 月 1 日（土）、旧増富中学校で開催。多数の温泉峡内宿泊者が参加した。

また、毎週土曜日の夜には、みずがきの森で星空を見ながら瞑想する体験会を開催した。

これら健康に関連する体験イベントは、有料にも係わらず参加者は多く、健康に対するニーズは根強いものがある。

## 2. 統合再生療法によるヘルスケア ウィークエンド in 増富

増富の湯では 11 月 12・13 日に、温泉療法、遠赤外線療法（ラジウムオンドル浴）、食事療法（無農薬食材）、運動・作業療法（キノコ採り、大根抜き、胡桃割り、野沢菜収穫と塩漬け、山道の散歩・体操・呼吸法）、医師の講座・指導などの各種体験による健康ツアーを実施した。

アトピー、不眠症などの自律神経失調症、がんサバイバー、慢性腰痛などの人を対象者として、募集。アトピーの人を除き、14 名が参加した。これらプログラムを実施するために、内科医師 2 名、精神科医師 1 名が随伴した。

### ■ 温泉峡内の連携

増富温泉峡は、人口減少が現在急激に進んでおり、高齢化率は 70% に迫っている。地域サービスを維持・向上するためには、温泉峡内の旅館、増富の湯、その他サービス業者の協働が必要である。

温泉博覧会 2011 の開催を通じて、様々な協働が生まれ、交流体験イベントが生まれたが、これらイベントやサービスが採算的にも見合わないと、持続できない。従って、地域内外の人たちが楽しめる、採算性が確保できるサービスを生み出すことが求められる。

宿泊施設を持たない増富の湯は、温泉峡の旅館やサービス業の情報交流や各種体験サービスのプラットフォームとして、どのように地域貢献ができるか。地域内外の人達とともに検討していきたい。

### 3. 増富の湯の取り組み例（視察）

増富の湯では、浴場周囲に遊歩道を整備し、これを運動・作業療法の場所として利用している。遊歩道沿いの遊休農地を借り受け、自然農業を行い、増富の湯の食堂で利用している。自然農業には堆肥づくりが重要。生ゴミを堆肥化し、作物を収穫し、食材として利用し、再び生ゴミを土に戻す循環方式を実現している。また、増富の湯が主催する健康ツアーのプログラムの一環として、大根抜き、キノコ採り、くるみ割り、漬物など、地域の生活文化体験を取り入れている。

#### ■ 堆肥づくり



#### ■ 土づくり 落葉も利用



## ■ 農場

正面に見える小屋には「いぶしがっこ」(スモークした漬物)を作る部屋、作業小屋がある。



## ■ キノコ採り

里山の間伐材を利用



■ くるみ割り



■ 研究会発表風景



## 4. 意見交換

### 出席者（順不同、肩書・敬称略）

---

- ① 小山芳久（増富の湯）
- ② 小池春美（同）
- ③ 小澤三千恵（増富温泉婦人部）
- ④ 小澤三代子（同）
- ⑤ 村松良平（増富温泉青年部）
- ⑥ 明石益男（山梨・里山の学校）
- ⑦ 有河寛一（生活の森グループ）
- ⑧ 増田直広（キープ協会）
- ⑨ 白倉英紀（山梨県大門・塩川ダム管理事務所）
- ⑩ 和田隆男（疾測量株式会社）
- ⑪ 山木義孝（北杜市リトリートの杜）
- ⑫ 原 智子（同）
- ⑬ 山田守郎（ヴィンテージリゾート株式会社）：ゲスト参加
- ⑭ 早川 源（山梨総合研究所）
- ⑮ 中田裕久（同）

### 意見概要

---

#### ■ 地域の人を楽しめる催事から場所づくりを

星空 Bar のイベントに代表されるように、地域の人を楽しめる催事を訪問客に提供するというやり方が、持続可能であるとともに、訪問客にとっても魅力的である。

また、小布施の「蔵部」のように、地域住民が夜、懇談するために作られた「飲食施設」が、結果的に訪問客が訪れる場所になった例もある。これが本物の観光施設だと思われる。こうした試みを協働して続けて欲しい。

#### ■ 増富温泉の自然・歴史を生かした健康や環境教育の拠点づくりを

北杜市内で、増富温泉は日本古来の伝統的温泉文化を有する唯一の場所である。清里では従来から環境教育を実践しており、近年では大人の健康教育を始めている。今後、増富温泉の健康教育などと連携した、八ヶ岳南麓での滞在型のプログラムづくりも可能性がある。

### ■ 里山の保全と循環型農業の推進に向けて

間伐材をキノコの苗床に、落ち葉を堆肥づくりに利用するなど、里山は人々の暮らしに密接な関係がある。増富の湯では遊休農地の土づくりから行い、農作物の収穫を体験メニューや、食堂の食材に用い、生ゴミを堆肥化するという循環型の農業、6次産業を作りつつある。周辺里山の保全と利活用に対し、今後とも協力支援をしていきたい。

### ■ フットパスの利用推進

現在、北杜市内の保養地域、観光地域では、地域共通のテーマとして歩いて楽しめる地域づくりを目指し、フットパスのソフト・ハードの整備推進を展開している。増富温泉はコンパクトな地域であり、本谷川沿いの遊歩道、裏道コースなど様々なフットパスが形成され、体験メニューもある。更なる利用推進のための普及活動を期待したい。

### ■ ウェルネス・ツーリズムのモデル地区の形成を

国民生活白書によれば、国民のニーズは医療・健康・介護・年金など、福祉に関する項目が突出して高い。「増富の湯」を始めとする増富温泉の健康・医療に関する取り組みは、国民ニーズに合致している。また、山梨県が23年春に発表した産業ビジョンの中に「ウェルネス・ツーリズムの推進」が主要施策の1つとして掲げられている。増富温泉の目標像や地域戦略は県内の「ウェルネス・ツーリズム」の推進モデルや全国の少子高齢化、過疎化する地域の先導的なモデルになりうる。

温泉峡の魅力をどう磨きあげるか。増富の自然資源を保全し、温泉峡の風情を残すことが求められる。10年以上の地域づくり活動によって、婦人部、青年部、その他ボランティアによる様々な協働活動が生まれている。これら地域活動や取り組みを基盤として、温泉峡の魅力に磨きをかけ、国民ニーズに合致した健康・医療の郷を目指して欲しい。